

essais ころみ 2019年6月

(再掲) 2019年4月1日(月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集 (筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2019年6月3日(月) 晴れ

今日はとりあえず晴れ。予報では週末は曇り・雨。ひよっとすると近畿も梅雨入りするかもしれない。当ビル前に少しだけ紫陽花の木がある。すっかり花が咲いて、今はまだ艶っぽさが無い。雨待ちの様子。

一 『堀田善衛』以外のことも(3) 一 「良質な意志」

ここにこうして仕事とは直接関係のないことを考え、書いているのは、今では性分としか言いようがない。人に勧められることなく、時代や社会を俯瞰するのも、また同じ。

日常生活で、街なかや電車内、その他もろもろの光景や出来事、ニュースや情報に接して、内心、今から世に出る年令でなくてよかったと思う。今の年令だからそう思えるのだろうけど。

これから世に出る年令だとしたら、今以上に「住む世界」を絞ることになると想像する。診断士の勉強で「20-80の原則」を知って、これはいろいろなことに当てはまると思った。

時代は変わっても変わらない層が20%はいるだろう。その時代ごとの世相をつくるのは80%の層。「ポピュリズム」、「データ資本主義」、「頭脳資本主義」が進んで、さて、人間はどうかわかるか。

これから20～30年後の価値観、思考様式、行動様式、倫理観、社会観、信頼の構造、などなど、それらの大勢を想像して、やはり20%の世界が居場所となるし、そうするはず。

そのためにも、ある種の諦観、前向きな諦めが大事。「令和」考案者がインタビューで、AI時代には良質な意志、生きる意志、さらに「悟り」が重要になると答えていた。本当にそう思う。